

令和7年度鳥取県環境審議会（第1回）における質疑応答の概要

1 会長・副会長の選任について

(質疑無し)

2 各委員の所属部会の指名について

(質疑無し)

3 鳥取県環境審議会運営要領の改正について

(質疑無し)

4 温泉掘削等許可について

(質疑無し)

5 地下水影響調査計画書等について

(質疑無し)

6 令和5年度鳥取県内における水環境の調査結果について

(緒方委員)

地下水の調査対象井戸として10市町村58ヶ所あるが、継続監視調査の47ヶ所は毎年度変わらず同じ場所で継続的な調査を行っているのか。また、概況調査はその時々によって加えられるのか。

(水環境保全課 星見参事)

継続調査は、場所によっては2年に1回等のローテーションで実施する場所もあるが、基本的には毎年継続しており、引き続き継続していく。

(緒方委員)

ヒ素関係で汚染原因が不明となっているところもあり、是非何かしらの原因が究明できるような形で今後も継続的な調査を続けていただきたい。

(小野寺委員)

全国的にはこれから始まると思うが、有機フッ素のPFASに関して計画があるか。

(水環境保全課 星見参事)

PFASについては、現在河川と湖沼について毎年検査を行っている。

(伊藤委員)

地下水の井戸調査でPFASの測定を今後する予定はあるか。ほとんどが地下水で社会的な問題になっていることも踏まえると、継続観測しているので、今後の検討課題として何らかの形で鳥取県としても項目に入れてはいかがか。

(水環境保全課 星見参事)

今段階では、地下水のPFASの測定はまだ検討していない。

地下水のPFASは、現在は水道の水質基準になっており、県内の水道事業者が測定をされている。今は水道事業者が調査している地下水のPFASの状況を注視し、一先ずそこでPFASを監視していく体制にしているところ。

(伊藤委員)

継続監視調査47ヶ所については現時点では（PFAS調査）対象外か。

(水環境保全課 星見参事)

現時点では対象外。

(伊藤委員)

せっかく (調査地点が) あるのであれば、個人的には調査して欲しいとは感じる。

(神谷委員)

湖沼のDOについて今回は表層データのみが示されているが、湖底のデータは取っているのか。多分塩分躍層ができて湖底が酸欠になっているのではと想像するが、結果はどうだったか。

(水環境保全課 星見参事)

3湖沼とも傾向的には似ており、夏場にかけて塩分躍層が生じて底層の方が貧酸素になりやすい状況が見られる。

(神谷委員)

生物の生息には影響があるか。

(水環境保全課 星見参事)

生物に全く影響がないわけではないとは思うが、まだ詳細な検証が必要だと思うので、調べて改めて伝えたい。

(齋藤委員)

湖山池の塩化物イオンの濃度が昨年も (基準を) 超えたということだが、今年もすごく雨が少ない状態が続いている。今年も高くなる可能性があるのではと危惧しているが状況はどうか。きめ細かい水門の操作で防げそうか、若しくは予防的な操作の予定はあるか。

(水環境保全課 星見参事)

湖山池の水門は、引き続ききめ細かい操作で塩分濃度の調整を図っていきたいと考えている。今の塩分濃度は 3000mg/l 程度ですが、今年も非常に暑いので塩分濃度が 5000mg/l を超えてしまう可能性もあり状況を注視して参りたい。